

Sense MACAO

センス・マカオ
2017 春号
SPRING

Macao, Once Again.....

もう一度行きたいマカオ

*Find your fortune and
luck: Pleasure
hunting in Macao -
Your luck awaits*

マカオの街角で見つける
「福」「運」への願い
「幸せになる
マカオ」

Happy



赤や金に
彩られた中国の「福」、
はるかポルトガルから
伝わる「縁起物」、近代的な
豪華リゾートで見つける
「ラッキー」……。マカオの街は、
東洋と西洋が融け合って生まれた
「幸」に彩られている。
たくさん歩いて「幸せ」を見つけよう。



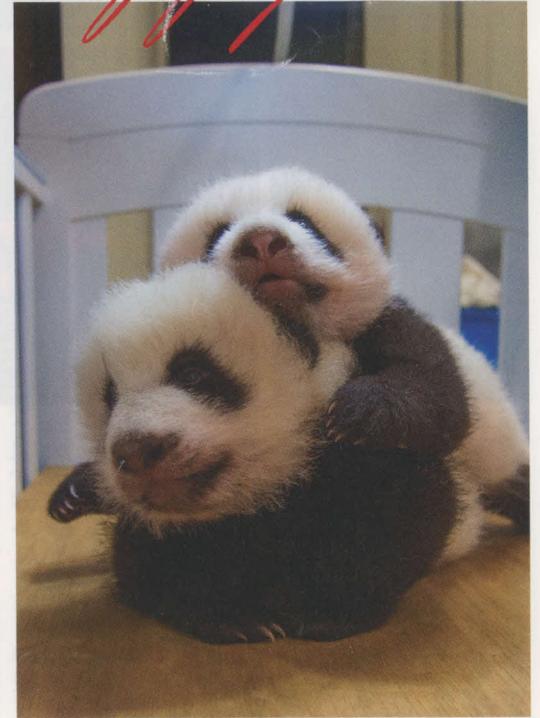


街で見かけた猫。のんびりと道行く人を眺めている。

④意外にもマカオの店先でよく見かける「招き猫」。そのルーツは中国だと言うので納得。だが、現代のマカオでは「商売繁盛」というより、かわいらしさを飾る人が多いとか。
⑤鄭家屋敷の入り口の亀。文字通り、めでたさの象徴だ。

Happy

上下が逆さまになった「福」のステッカー。中国風に赤や金に彩られた縁起物で、店舗や住居の玄関先などに貼られている。



なかなか子宝に恵まれれないと言われるパンダに、昨年なんと双子が誕生。これだけでもめでたい?! コロアンの「マカオパンダ館」。

「幸せ」をもとめてマカオで 出会いたい「福」と「縁起」

春。せっかく旅に出たのだから、「何かよいこと」や「幸運」を見つけてみたい。マカオは、そんな気分がぴったりの街だ。

なにしろ、中国、ポルトガル、かつてのマカオ、そして未来を象徴するマカオの4種類の「幸」が混在しているのがこの土地ならではの特徵。東西のさまざまな神様、聖人たちを祀る廟や教会も街中には数多く、ぶらりと歩けば「縁起のいい場所」に出会えるのだ。たとえば、中国の影響を受けているのは廟や寺院。その代表が「マカオ」という地名の発祥といわれる媽閣廟だ。海の守護神である女神「阿媽」が祀られているマカオ最古の寺院には、訪れる人が絶えない。誰もが、女神に向かってじつと手を合わせている。渦巻き型の線香に火をつけ、絵馬に願いことを書いてぶら下げておくのは、日本人にも馴染み深い習慣だ。

媽閣廟のような大きな寺院に詣でるのはもちろんだが、マカオの人々は日々、神様を大切にしている。それを実感するのは、「門口土地神」「門口財神」などと書かれた小さな土地神様。家内の守り神でもあり外からの邪



商店の店先の土地神様。お供え物は、鳥がやってきて食べていることも。

気を家に入れれない、という意味もあるとされ、玄関先や店先に置かれた土地神様には、線香とともに果実やパンなどの食べ物が供えられている。

一方、ポルトガルから伝わった縁起物の筆頭は「ガロ」。カラフルに彩色されたニワトリの置物で、この地に暮らすポルトガル人たちにはなくてはならない幸運の象徴だ。「ガロ」は、そのキュートな風貌(?)から、お土産としても人気で、置物から爪楊枝入れ、トートバッグなどにも「ガロ柄」が登場している。

土地神様と「ガロ」が古くからの縁起物なら、日々、進化しているコタイ地区で見つかるのが噴水やガラスなどを使った「風水」にちなんだラッキースポットだ。音楽に合わせて踊るように吹き上がる噴水、水の中からゆつくりと現れるダイヤモンド、七色に輝くクリスタルなど、豪華リゾートの内外に、縁起にこだわるスポットがたくさん。マカオでは、近代的なビルの中を歩くときも、ちよつとした「幸運」を探せるのが楽しい。

そして、昔ながらの暮らしが残るタイパやコロアンでは、のんびりした時の流れの中で、ゆつたりとした気分になれるのがうれしい。日頃の喧噪を忘れて、穏やかな幸せに浸れる時間こそ、マカオならではの幸せかもしれない。

土地柄と歴史、文化など、さまざまな要素の「幸」に、街中のどこでも出会えるマカオ。マカオを歩くと幸せになれる。



カトリック教徒の多い土地柄だけに、十字架のグッズもバリエーションが豊かな。



中国の文化と習慣 「福」と出会う

Discovering fortune in the Chinese culture and customs

「福」のステッカーで 財福を呼び込む

家々の玄関や商店の入り口、はてはオフィスの正面玄関にまで貼られている「福」のステッカー。赤地に金文字で描かれた「福」のインパクトは強く、「なんとしても、「福」を呼び込むぞ」という意気込み(?)すら感じさせる。

この「福」ステッカー。時々、上下が逆さまに貼られているのを見かける。いったい、逆にするとは何の意味が?

謎を解いてくれたのは、会社経営者のマカオ人女性だ。

『福』の文字を逆さまに貼るのは『倒福』といいます。『倒』は逆さまの意味で、発音は『到来する』の『到』と同じ。来福を願うためのものなんですよ

この「倒福」の意味について、彼女はこんな由来を教えてくださいました。

『福』をお願いして、『福』をいただいた家は『福』の文字を逆さまに貼ると言われています。『福』を我が家に届けてくださってありがとうございます、という感謝の意味を表しているのです。

願いと感謝。果たしてどちらが正しいのか。「どちらもあり正しいと言えますね。『福』を招きたいという気持ちは同じだし、いただいた『福』に感謝するのも同じ。感謝しないと、次の『福』は来ないものですからね。マカオでは、お正月に『福』を貼って、来年までそのまま貼っておく。扉に貼れば、雨にも当たるし、色褪せるけど、それでも剥がさずに、そのままに置くのが慣わしなんですよ」と彼女は教えてくれた。

ちなみに、玄関の扉だけでなく、部屋の窓ガラスなどにも貼り付けるといいます。「福」に感謝して「福」をいただく。そんな謙虚さが、幸せを呼ぶのかも?



タイパの街角で、壁と柱の隙間にお座りになっていた金色の小さな「大黒様」を発見! 隅っこから福々しい笑顔で通る人を見つめていた。



首慣の中で



④タイバ最古の道教寺院「北帝廟」。海の神様であり土地を災厄から守る守護神で、頼もしい神様の前で、無心に子供たちが遊んでいる ⑤マカオの地名発祥の媽閣廟。媽祖様へのお願いが書かれた風車がずらりと並ぶ。庶民の熱い信仰心が伝わってくる ⑥お土産物店にいた神様たち。金魚もマカオでは縁起物だ。

あちこちに おいでになる 「門口土地神」様

「マカオの人は信心深いって？神様は大事でしょ。昔からのしきたりで、神様とおつきあいしている人は多いからね」
水坑尾街に近い市場の店先で、主人らしきおばさんがこう言った。手に持っているのはバナナとお線香。おばさんの足元には、高さ50センチほどの祠のようなものが置かれている。「門口土地神」と書かれている下には香炉が置かれている。おばさんは香炉の灰を捨て、周囲を丁寧に掃除すると、線香に火をつけ、バナナを供えた。

「この神様をお祀りしておくよ、邪気が家の中に入れないのよ。外からの邪気が入ってこないから、家の中は安全というわけね」
このおばさんの店だけでなく、周囲を見れば、さまざまな「門口土地神」様が祀られている。大きさをデザインが微妙に異なるものも興味深い。

名前が違っても 役割は共通？

玄関先や店先にある「門口土地神」。よく見ると、「門口土地財神」、「前後主財神」などと書かれている神様もいる。マカオの人に聞くと、「意味はみな同じ。どの文言を選ぶかは好みですよ」とか。

いづれも、外からの邪気を家の中に寄せ付けず、家内に財福を招いてくれるという民間信仰だという。

この神様を祀るには、香炉、香炉を載せる台、燭台、お供え物の皿などがセットになっているが、「これも、厳格に形が決まっているわけではない。それぞれの家で好きにお祀り

Fortune



コタイの豪華宝飾店でも下町の貴金属店でも必ずと言っていいほどジョーウインドーに飾られているのが金の豚。結婚式のネックレスとしての利用が多く、財を表す金、子宝に恵まれるブタが何匹も連なり、一族の繁栄を願う象徴という。

縁起にこだわる マカオの人々

「好きにお祀りしている」とは、なんとゆるやかだから、それがマカオの土地柄かも。ゆるやかさとおおらかさで祀られた神様だけに、観光客にも分け隔てなく御利益がありそう。街歩きの途中で手を合わせて、邪気を払っていただくのもいい。

「いいんですよ」と地元のお店のおじさんが教えてくれた。

マカオの人は、縁起にこだわるという。たとえば、新しい家はもちろん、巨大なオフィスビルを建てるときでも、きちんと風水を見てもらい、建築に取りかかる日も縁起のいい日を選ぶという。

前述の女性の話では、「引っ越し時なども、縁起は気にしますよ。まず、新しい部屋の四隅にお線香を立てて邪気を家から出します。その前に住んでいた人がどういう人か分からないし、新築でもいろいろな人が関わっていますから。悪いものをもっていたら大変。マカオには、引っ越しなどの時にお祓いをする専門のおばさんいます。私も引っ越しをするときに、ちゃんとお祓いをしましたよ。その方が気持ちよく住めるでしょ」。

スマートなスーツに身を包んだ彼女の口から、古風な言葉が飛び出した。だが、よく考



えると、気分よく新生活のスタートを切るには「邪気を払う」ことは大切な行事だろう。中国の歴史から生まれたマカオの「来福」「招福」「お祓い」は、実は、気持ち前向きにして生きていくための知恵かもしれない。

豚のネックレスに込められた「招福」

マカオの貴金属店のショールームで必ずといっていいほど見かけるのが、黄金の豚のネックレスだ。丸々と太った豚が3、4匹もぶら下がっている。豚はどうやら母豚をイメージしているらしく、乳を飲む子豚が何匹もくっついている。母豚の部分は金も分厚く使われ、重量感たっぷり。首から提げれば、さぞかし重いことだろう。

この豚のネックレスは、実用ではなく結婚式の縁起物だという。

豚は多産なことから「子宝に恵まれる」という意味が込められ、子孫を増やし、家を繁栄させるという願いが込められている。素材を金にしているのは、金は財でもあり、裕福さの象徴であることから。戦乱の時代から金



マカオ科学館前の「ハートの木」。結婚式の記念撮影の「前撮り」スポットとしても人気で、晴れた日には何組ものカップルが木の下で本番の衣装でポーズを取るという。

ウォーターフロントから突き出た橋の先にたたずむ黄金の観音像。太陽の光を浴びて輝く姿に、思わず手を合わせたくなる。穏やかな表情もありがたい。



人々に大切にされてきた。いずれにしても、縁起物としての意味は、「財産と子宝に恵まれた幸せな人生を送るよう」という願いが込められているめでたい装飾品なのだ。こうした由来のある黄金の豚のネックレスだが、実際に結婚式で花嫁が身に着けるわけではないという。

「親戚の女性が身に着けて出席することはあると聞いていますね。また、金は文字通り金なので、結婚式ではブレスレットなどをじやらじやらと着けるしきたりもあるようです。最近では、縁起よりもおしゃれ感を重視するカップルが増えているので、こうした縁起担ぎは、もっぱら親世代ですね」とガイドの女性が教えてくれた。

たしかに、結婚式に呼ばれておめかしして、最後にこのネックレスを着けるか…。うーん、ちよつとおしゃれじゃないかも!?

渦巻線香は船乗りへの祈り

マカオの寺院で見かける渦巻線香。静寂の中で円錐形に渦を巻いた線香から、薄灰色の煙がゆつくりと立ち上っている。

大きな寺院ともなると、渦巻線香の数も多く、それぞれが燃えているときは、あたりにもやがかかったように見える。この線香の煙のベールの向こうにおられる神様に向かって、一心に祈る姿は、マカオの寺院ではおなじみの光景だ。

線香とは、本来、祈るためのもの。「門口土地神」などには、日本と同じような丈の短い線香が供えられており、これは火をつけてしばらくすれば燃え尽きてしまう。

それに対して、渦巻線香は大きさによって1週間、2週間と燃え続ける。長いものなら1か月の間、火が絶えることがないという。昼夜を分かたず燃え続けるためには、長い長い線香である必要がある。そこから、渦巻き型が考案されたのだろう。

この不思議な形の線香は、海に囲まれたマ



カオという土地そのものに深く関係している。その由来を土地の古老が教えた。

「昔、漁民が漁に出ると、1週間と帰らない。長ければ1か月も海にだつた。その間、残された家族や亦の無事を祈り続ける。通信手段などは、船乗りが自分の無事を知らせないし、家族もひたすら待つしかない。そのため、何日も、何週間も燃え続ける香が求められたんですよ」と。

今日も、燃え続ける渦巻線香。その祈りは、21世紀の今となつて



漁民が漁に出ると、1週間、2週間
長ければ1か月も海に出たまま
の間、残された家族や恋人は漁民
祈り続ける。通信手段なんてない昔
りが自分の無事を知らせる手段もな
族もひたすら待つしかないからな
に、何日も、何週間も燃え続ける線
燃え続ける渦巻線香。
は、21世紀の今となって



あちこちの寺院で見かける渦巻線香。1か月も燃え続けるような大きなものが並ぶと、周囲はうっすらと霞がかかったようなおごそかな雰囲気になる。

は、さすがに漁に出た人のためだけの祈りではないだろう。だが、昔も今も、渦巻線香に火をともし、待ち人への思いは変わらない。

お店の奥で 目を光らせる関帝

マカオの商店や食堂などでは、関帝祭壇が飾られていることが多い。十月初五日街で朝食を食べに入った食堂の奥にも飾られ、その中央には立派なひげを蓄えた「関帝」が出入り口ににらみ(ツ)を効かせていた。

「関帝」は商売の神様として、広く中国では民間で信仰されている。

「関帝」とは、「三国志」で有名な関羽のこと、信義や義侠心に厚い武将として今も中国の人々のヒーローだ。誉れ高い武将がなぜ「商売の神様」になったのかといえば、帝が塩湖で有名な地方の生まれであるため。帝が塩の密売に関わっていたという民間伝承があり、さらに「義に厚い」とされることから、「商売の神様」としての信仰が庶民の間に広まっていたという。

「マカオの商売人は関帝への信仰は熱心ですよ。毎日、開店前にろうそくに火をともし、お線香をあげてお祈りする社長さんたちは多いです」とガイドの女性。

商売繁盛には信心深さが大切。だが、「最近、祭壇には電灯式のろうそくを使うことも多いです。防火対策ですね」と彼女は、現代的事情“を教えてくださいました。

海を渡ってやってきた 日本のデザインが呼ぶ福

「おたふく」といえば、伝統的な日本美人。正月の「福笑い」などでもおなじみだ。その「おたふく」と、なんとマカオで再会。場所は、ラザロ地区の「マカオ・ファッション・ギャラリー」だ。古いビルを改装したアートスペースで、マカオ政府の文化局が支援、ここから「マカオ発」の最新ファッションが発信されている。いつ行っても、地元のデザイナーたちの高感度なアイテムが並ぶ楽しいこの店で見たのが、「おたふく」をモチーフにしたネックレス。さらに、ショーケースに飾られているのが「じゃんけん」柄のTシャツ。ご丁寧に、三人の「じゃんけん」で、「グー」が二人に「パー」が一人。ちゃんと勝負がついている。若いカップルが「おたふく」ネックレスと、「じゃんけん」Tシャツを手にとって、なにやら話しながら品定めをしている。さて、その感想は「クール!!」日本の縁起物「おたふく」と勝負に勝った「じゃんけん」柄。異国の地で見ると、ありがたくも新鮮なデザインに思える。



⑤商売繁盛の神様として祀られている「関帝」。家の中はスペースの都合上、「廟」ではなく「祭壇」だ。⑥店舗や住居の玄関の周囲に貼っておくステッカーの数々。「平安」に入ってきてもらって、家の中には「福」を呼び込みたいという庶民の願いの表れ。





伝説に登場する白いガロのほかにも、ガロのボディは色とりどり。小さな体も存在感たっぷりなのは、カラフルな美しさも大きい。黄色あり、ブルーあり、パープルあり…と、ラッキーカラーのガロが見つかるかも。

「フェリシダージ」 （ポルトガル語で「幸運」の 象徴、「ガロ」）

マカオの街のあちこちで見かけるカラフルなニワトリ「ガロ」。お土産物店はもちろん、

ポルトガルの 歴史に育まれた 「フェリシダージ」を 見つける

レストラン、ブティック、カフェなど、さまざまなところで飾られている。

このガロ君。もともとは、はるばるポルトガルから伝わってきた幸運の象徴なのだ。

ガロにまつわる幸運の物語を、16世紀にまでさかのぼってひもといてみよう。

その出来事が起こったのは、ポルトガル北部の町バルセロス。港町ポルトに近く、ポルトガルからカトリックの聖地、スペインのサンチアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼路のひとつであったという。

この町に、サンチアゴに巡礼に行く途中の男がやって来た。折悪く、そのころ、町では盗みが横行しており、町の人は犯人捜しに躍

起になっているさなか。一人旅のこの男が怪しいと容疑がかけられ、あろうことか彼は逮捕されてしまう。

聖母マリアと聖人サンチアゴを熱く信仰する男は裁判官に、「サンチアゴへのお願ひ事が叶ったので、お札の巡礼に行く途中だ。盗みとは無関係」と無実を訴える。だが聞き入れてもらえず、裁判官は彼に絞首刑を言い渡した。

処刑前、最後の願いを聞かれた男は、「自分に刑を言い渡した裁判官を訪ねたい」と言う。願ひは聞き入れられ、彼は自宅で宴を開いている裁判官のところへ連れていかれて、その場で、再度、無実を訴える。だが、居合わせた誰も信じてくれない。そこで男はテーブルの上の雄鶏の丸焼きを指さしてこう宣言する。

「明日の朝、私が処刑される時に、私の無実の証として、この丸焼きの雄鶏が鳴き出す

だろう」
これを聞いた人たちは

*Finding Felicidade fostered
by Portuguese history*

大笑いしたが、念のためにその丸焼きの雄鶏は食わずに、翌朝まで取っておくことにした。さて、翌朝。処刑の時間がやってきた。その瞬間、テーブルの上の雄鶏の丸焼きが突然、起き上がり「コケッココ」と鳴いた。驚愕した裁判官は刑場に走り、処刑寸前に男の無罪を宣言した。

これがガロが「真実の証」と言われる所以として伝わっているという。

ちなみに、その事件から何年かが過ぎたころ。男は再び、バルセロスの街を訪れ、自分を守ってくれた聖母マリアと聖人サンチアゴを讃える石碑を建てたといわれている。はるか大航海時代。マカオを目指した船乗

りたちは、その長い航海の無事と土地での幸運を祈ってガロとともに帰ってきた。

遠い遠い故国からやってきたガロは、マカオの地で人々の「幸運」の守り神として愛されてい

マカオの アイドル 「ガロ」

熱いカトリックの信仰に支えられたガロの「真実の証」の物語。だが、マカオで見かけるガロは、そんな重責を担

った(?)とは思え
とほけた表情が
「もし
雄鶏な

が悪くて動けないんじゃないか」と余計な心配をしたくなるほど、体の大きさに対して大きすぎる尻尾とトサカ。ボディは黒を基調に、赤ルーなどカラフルなペイントが施

る。ガロのボディが黒いのは、伝説が宴のテーブルの上で丸焼きなら、炭火でこんがり黒く焼けてすね」とポルトガル文化に詳しい説してくれた。

この「丸焼き」の黒いガロに对ガロが登場する伝説もある。こちら雄鶏だが、「食材として買って鶏だから、どちらにしても食べら運命。それだけ、当時のポルトガ



、その長い航海の無事と上陸した土
運を祈ってガロとともに航海を続け
い故国からやってきたガ
カオの地で人々
「丸焼」の守り神
とされている

「丸焼」の

ポルトガル
のガロの
心配をし
ないか」
動けな
ないか」
心配をし
ないか」
動けな
ないか」

雄鶏ならバランス
「もし、本当の
とぼけた表情だ。
った(?)とは思えないほど、
そんな重責を担
オで見かける
証」の物語。だ
たガロの
倍仰に

ポルトガル文化に詳しい編集者が解
れた。
「丸焼き」の黒いガロに対して、白い
場する伝説もある。こちらは、生き
が、「食材として買ってこられた雄
、どちらにしても食べられてしま
れだけ、当時のポルトガルの人々に
ごちそうといえば雄鶏だったことを



伝説は物語っていますね」と編集者氏。
現代のマカオで見かけるガロは、伝説のこ
となどつゆ知らず、ユーモラスな顔つきで、
観光客を見つめている。その大らかな雰囲気
は、いかにも南欧生まれらしく明る
い。

今風に言えば「ゆるキャラ」
のような愛されキャラで
もあり、その魅力のおかげで、ポルトガル料理の
レストランに飾られたり、お土産のキ
ホルダーやマグネットなど、さまざまに
変身している。

ポルトガルからやってきた
縁起物のガロ。雄鶏の「丸
焼き」がルーツだけに黒い
ガロが多いが、白いガロの
物語もなかなかいい。びっ
くりしたようなまん丸い目
が愛らしい。

黒いガロと白いガロ。どちらも奇跡を起こ
した縁起のいい雄鶏。せっかくマカオに旅し
たのだから、両方セットでお土産に持ち帰る
と、「フェリシダージ」も2倍になるかもし
れない。

「ガロ」を世界的に有名 にしたサッカーの試合

前述の編集者氏によると、ガロはもともと
は地方の町の伝説だった。それが、一躍有名
になったのは、1966年のFIFAワールド
ドカップイングランド大会らしい。彼の説明
によると、「この大会の決勝トーナメントの準
決勝がポルトガル対イングランドでした。ガ
ロはポルトガルチームのマスコットで、観客
席ではガロを掲げて、盛り上がったといわれ



世界遺産の聖ポール天主堂跡やセナド広場、マカオタワーなど、土
産物店に並ぶマカオ土産のマグネット。カラフルなガロも目立つ。

コケッ
コケッ...

もうひとつの「ガロ」の物語

ガロ伝説の雄鶏は、炭火でこんがり焼かれていたとか。
だが、白いガロの物語もある。粗筋は、旅の男が無実の罪を
着せられるところまでは同じ。その先は、こうなる。
広場での裁判に引きずり出された男は無実を訴えるが、誰
も聞いてくれない。男は広場を囲む野次馬の誰かが食材にと
買って来た白い雄鶏を見つける。男はカゴに入った雄鶏を指
さし、「自分の無実を聖母マリア様が証明してくださる。処
刑の時、あの白い雄鶏が3回鳴くだろう」と叫んだ。次の
瞬間、雄鶏が3回鳴き、おかげで裁判官は男の無実を信じた
という。白いガロが「奇跡の証」といわれる由来となったエ
ピソードだ。

Felicidade



扉に貼る中国の「福」ステッカーも、キリスト教文化と融合。「愛」の文字や鳩、十字架の西洋風に「福杯満溢」の四文字。素材は紙で、繊細なレースのような切り抜き細工が見事だ。

女性から男性に贈るポルトガルの「恋人たちのハンカチ」。白麻に、色とりどりの糸で愛の言葉や愛を表現する花や鳩が刺繍されている。17世紀から続く伝統の手仕事の美しさが素敵だ。



白い小石を敷き詰めた歩道に色石で絵を施した石畳カルサーダス。複雑な文様のカルサーダスが、続くラザロ地区の聖ラザロ教会に近

美しい刺繍は愛の証

ています。なにしろ、ガロは幸運を呼ぶ雄鶏ですから。しかしながら、試合結果は惜しくもポルトガルチームの負け。この大会では3位に甘んじたものの、「この大会の得点王はポルトガルのエウゼビオ選手。彼は国の英雄ですよ」と編集者氏。やはり、ガロの御利益は大きいようだ。

い「仁慈堂婆仔屋」は、かつての「女子養老院」だ。現在は、その美しいポルトガル建築を生かして、ポルトガル料理のレストランやポルトガルのグッズが並ぶセレクトショップなどに活用されている。本場のポルトガルグッズが並ぶ「メルカリア・ポルトゲータ」で見つけたのは、精緻な刺繍のハンカチ。白地に赤やピンク、ブルー、グリーンなどの糸で、花やツタ、ハートマーク、おなじみのガロなどが刺繍されている。一針、一針、丁寧に刺された刺繍は、作り手の思いがぎゅつとつまっているようだ。

ラザロ地区のカフェで働くポルトガル出身のパウロさんは「我が家では、おばあちゃんが刺繍のハンカチを作ってくれた。幸運のお守りだよ」と教えてくれた。

ハンカチに刺繍された愛の言葉

このハンカチは、ポルトガルでも「ちのハンカチ」と呼ばれている。中紀ごろにさかのぼる。当時の女性する人のために真っ白なハンカチへの刺繍を施し、相手の男性にプレゼントからハンカチを受け取った男性に正式の女性の告白を受けたとみられる、以後、二人は「公のカップル」されたという。

「ハンカチは、真っ白の麻。刺繍糸です。実は刺繍の模様には決まり意味があるのです」と「メルカリアゲータ」のスタッフ。彼女は「ハッロン愛情、鍵は二人の心の結びつきを表現する意味で、バラの花は『愛の心カチに、たくさんのお愛とその意を表現しています』と教えてくれた。

すべて手刺繍だけにお土産物とさか高価。額に入れて絵画のような人も多いとか。もともと、これ刺繍に込められた愛の重さに、現押しつぶされてしまうかもしれない。「恋人たちのハンカチ」に欠かせの言葉だ。男性に送る短い詩を筆で刺繍してあるもので、「刺繍の自分で考えて、愛の言葉を自作の

刺繍に れた愛の言葉

チは、ポルトガルでは「恋人た」と呼ばれている。起源は17世のぼる。当時の女性たちは、愛に真つ白なハンカチに思い思い、相手の男性にブレゼント。女たちを受け取った男性は、告白を受けたとみなさ人は「公のカップル」と認めら

は、真つ白の麻。刺繍糸は綿刺繍の模様には決まりというか、です」と「メルカリア・ポルトタッフ。彼女は「ハートはもち二人の心の結びつき、鳩は忠を表現しています。小さなハチ」を表現しています。小さなハチと教えてくれた。

刺繍だけにお土産物としてはいさに入れて絵画のように飾っていか。もつとも、これだけ丁寧なれた愛の重さに、現代の男性はてしまうかもしれない。のハンカチ」に欠かせないのが愛に送る短い詩を筆記体の文字を、刺繍のデザインを、愛の言葉を自作の詩にして刺



聖ポール天主堂跡近くのポルトガルの石鹸屋さんで見つけたサシェ（香り袋）と石鹸。花の香りがかわしく、パッケージも素敵。お土産としても人気が高い。

刺繍するのが伝統的なスタイルなんです」とパウロさん。

実は、刺繍の文字の中で、赤い糸を使っている箇所は、わざと綴りを間違えて刺繍してあるのだという。なぜなら、このハンカチの起源である17世紀ごろは、一般的な女性は読み書きが正確ではなかったといわれているから。

「綴りを間違えながらも、一心に刺繍していた彼女たちの思いを今に伝えるために、わざと間違った綴りにしているのです」とスタッフの女性。ポルトガル語で刺繍された愛の言葉は読めないが、愛する人のために一針、一針、美しい糸を刺していったポルトガルの女性たちの思いは伝わってくるような気がする。

カトリック教会から いたたく縁起

聖ローレンス教会、聖オーガスティン教会など、マカオにはカトリック教会が多い。マカオには中国の文化とともにキリスト教の文化が自然に融け込んでいる。

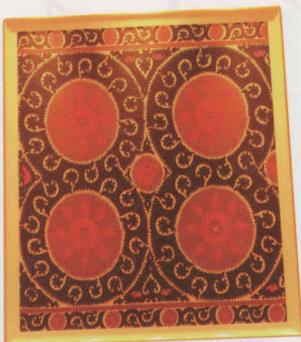
入り口の扉を開けている教会も多く、時には、静かに礼拝堂の中にたたずんでみるのもいい。ステンドグラスがはめ込まれた窓から差し込んでくる光、神父さまが広東語で語るお説教……。言葉は分からないが、静かな祈りの場に身を置くと、発展し続けるエネルギーが感じられ、穏やかな気持ちになれる。世界遺産に登録されている聖ヨセフ教会では、



⑤聖ローレンス教会の庭で、ひざまづいて祈る天使像。光を浴びた真つ白な像は、マカオの敬虔な信徒たちを守っているかのようだ⑥さまざまな形の十字架。聖母マリアを描いた品も多い。

礼拝堂の背後の壁際に置かれた棚の上に、十字架をモチーフにしたブレスレット、聖母マリアをあしらったメダリオンなどを入れた箱が置かれている。遠慮がちにそつと置かれた献金箱にお金を入れて、好きなメダリオンなどを持って帰れる仕組みで、献金額は1個につき50パタカ以上。自己申告制“だが、神様が見ておられる”と思うせいか、

誰もが正直にお金を入れている。また、世界遺産の大堂（カテドラル）に近いリブラリア聖パウロは、カトリック教会のシスターやボランティアが運営するキリスト教専門の書籍やグッズを扱う店。聖母子像、キャンドル、十字架のネックレスなどは、素朴ながら清楚なデザインで、街の中には見られない静かな暖かさに満ちている。



8は縁起のよい数字。ホテルの廊下にかけられた絵画も、さりげなく8がモチーフになっている。

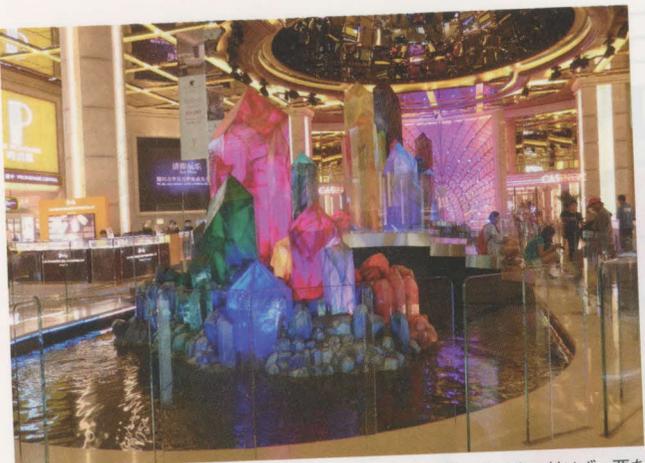
進化し続ける街から 聞こえる「水の音」

マカオのエネルギーを象徴するコタイ。20年ほどの間に開発が急ピッチで進み、次々と巨大な統合型リゾートが開業、夜ともなれば、目もくらむような光に飾られるビル群の光景は、まさに「近未来」なのだ。

とはいえ、そこはマカオ。近代的で豪華な統合型リゾート施設とはいっても、あちこちに「縁起」や「ラッキー」にちなむ「仕掛け」が施されている。

その代表が「水」。地元のホテル勤務の男性は、「中国では水はお金を運んでくれるものとして、縁起のいいものです。噴水や池など水をたたえる施設を作るのは、お金を呼び込もうという縁起担ぎなんですよ」という。

たしかに、いくつものホテルが入る統合型の巨大リゾートホテルでは、施設内に何カ所もあるロビーのほとんども、噴水などが配されている。たとえば、「ザ・パリジャン・マカ



「ギャラクシー・マカオ」の「ラッキー・クリスタル」。水晶は魔を寄せ付けず、悪を浄化してくれるパワーが宿るとか。

「近未来の見える ラッキー」をつかま



「ザ・パリジャン・マカオ」ロビー中央の噴水。フランスの庭園に置かれていた噴水

オ」のロビーの噴水を吹き抜けの2階から眺めてみると、お金をイメージさせる円形の噴水にカラフルな光を当てる演出で、いつまでも見飽きない。

また、「ギャラクシー・マカオ」のメインロビーで人気の「フォーチュン・ダイヤモンド」30分に1回、クリスタルのシャワーのような噴水の中から、ゆつくりと直径2メートルほどの巨大なダイヤモンド型のオブジェが上

ってくるというショーだ。ピラーの光をまとう噴水は、オーラめき、そこに浮かび上がる。「豪華」の一言に尽きる。このまると周囲は記念撮影の人々。巨大ダイヤモンドがせり上が。スマホに納めようとタイムイン。さまざまに輝く巨大なタワーから、「ラッキー」をつと

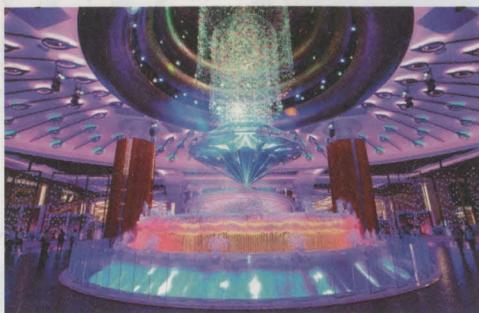
ええるコタイで つかむ

Be lucky in
futuristic Cotai

Lucky



「ウィン・パレス」で見つけたステンレススチール製のチューリップ。美しい花もラッキー・アイテム。光に映えるカラフルな色合いで運氣もアップ。



「ザ・パリジャン・マカオ」ロビー中央の噴水。フランスの庭園に置かれている噴水をイメージしたロココ風。実は縁起のいい「円」をデザインに取り入れている。⑥噴水の中から現れるダイヤモンド。記念撮影で「ラッキー」を記録する人も多い。⑦「ザ・パリジャン・マカオ」のプールサイドの黄金のシャワー。浴びているだけで「ラッキー」になれそう。

というショーだ。ピンク、赤、ブルまとう噴水は、オーロラのようにゆそこに浮かび上がるダイヤモンドは、周囲は記念撮影の人たちでざわめき、ヤモンドがせり上がってくる瞬間を納めようとタイミングを狙い始める。パ「ラッキー」をつかもう。

「近未来」の光景では「金色」ははずせない

「水」はお金を運んでくるが、金色は文字通りお金や財そのものを表す。コタイ地区の統合型リゾートでは、館内に金を使った装飾が目立ち、小さな部分にも金が使われている。

「ギヤラクシー・マカオ」は、建物上部の「擬宝珠」型の装飾が特徴的だ。屋根の上の「擬宝珠」は南国の強い太陽の光を受けて、その黄金の輝きがますます増す。

また、「ザ・パリジャン・マカオ」のプールサイドには、凝った装飾を施した金色のシャワーが用意されている。豪華な金色のシャワーから降ってくる水は、縁起の良さも最強!?

きらきらしたコタイで、
たくさんの「ラッキー」を
つかもう

「ギヤラクシー・マカオ」の東側のクリスタルロビーでひときわ目立つオブジェがある。「ラッキー・クリスタル」だ。七色の水晶の山を模したブロックが9つ置かれ、それぞれのポイントで手をかざすと、音楽とともに光が飛び交う。この高らかな音楽と光、そしてカラフルなクリスタルが、訪れる人に幸運をもたらすという。また、「スタジオ・シティ・マカオ」の8の字型観覧車「ゴールデン・リール」は、まさに中国で縁起のいい数字の代表である8の字の内側をなぞるようにゴンドラが進んでいく。地上約130メートルの高さからの眺めには息をのむ。最高の「ラッキー」がゲットできそうだ。



④「ウィン・パレス」のスイートルームに置かれているアメニティのひげそり。豪華なバスルームに似合うこちらも黄金の輝きだ⑤「ウィン・マカオ」のロビーに置かれた金色の吉祥樹。よく見ると、生い茂る枝の間に小ザルを抱いた母ザルの彫刻が見える。金色の縁起物の母子ザルは、近代的なホテルの空間になぜかしっかりと合って、幸運が届きそう。





MACAO HAPPY MAP

マカオ ハッピー マップ

- | タイパエリア | マカオ半島 |
|----------------|-----------------|
| 10 北帝廟 | 01 メルカリア・ポルトゲーザ |
| 11 タイパ・ビレッジ | 02 十月初五日街 |
| | 03 水坑尾街 |
| コタイエリア | 04 大堂(カテドラル) |
| 12 ギャラクシー・マカオ | リブラリア聖パウロ |
| 13 ザ・パリジャン・マカオ | 05 聖オーガスティン教会 |
| 14 ウィン・パレス | 06 聖ローレンス教会 |
| | 07 媽閣廟 |
| コロアンエリア | 08 ウィン・マカオ |
| 15 マカオパンダ館 | 09 観音像 |

MACAO INFORMATION

中国系の伝統行事が3つも重なる特別な日
漚仏祭 / 酔龍祭 / 潭公祭 ★ 5月3日(水)

旧暦の4月8日(今年は5月3日)は、中国系の伝統行事「漚仏祭」、「酔龍祭」、「潭公祭」が重なる、文字通り「祭り三昧」の1日だ。「漚仏祭」は、日本でいう「漚仏会」や「花祭り」と同じ、お釈迦様の誕生日。マカオ各地の仏教寺院で仏像を清める行事が執り行われる。「酔龍祭」は、清王朝の康熙帝(こうきてい)時代に蔓延していた疫病が、神聖な龍によって収められたという伝説に由来。男衆が龍の頭と尾を持ち、酒を飲ませ合いながら、世界遺産の閻帝廟から内港までを練り歩く。行く先々で

It's NEW!

気になるホテルのオープンは?

今年もいくつかのメガリゾートが開業するといわれるマカオ。その皮切りとなるのが2月27日に、新口岸地区にあるマカオ・フィッシャーメンズ・ワーフ内に誕生した「レジェンド・パレス・ホテル」だ。モンテカルロをテーマにしたホテルで、等級は5つ星、スイートを含む客室数は223室で、カジノを併設するという。同エリアは大規模なリノベーション工事中で、1つめのホテル「ハーバービュー・ホテル・マカオ」は2015年開業。2つ目が「レジェンド・パレス・ホテル」で、3つ目となる「レジェンデール・ホテル」は、来年夏の竣工を目指しているという。また、今年にはさらに「マカオ・ルーズベルト・ホテル」[The13] (写真②) [MGM



漚仙祭 / 酔龍祭 / 潭公祭 ★ 5月3日(水)

旧暦の4月8日(今年は5月3日)は、中国系の伝統行事「漚仙祭」、「酔龍祭」、「潭公祭」が重なる、文字通り「祭り三昧」の1日だ。「漚仙祭」は、日本でいう「漚仙会」や「花祭り」と同じ、お釈迦様の誕生日。マカオ各地の仏教寺院で仏像を清める行事が執り行われる。「酔龍祭」は、清王朝の康熙帝(こうさてい)時代に蔓延していた疫病が、神聖な龍によって収められたという伝説に由来。男衆が龍の頭と尾を持ち、酒を飲ませ合いながら、世界遺産の関帝廟から内港までを練り歩く。行く先々で



たっぴりと酒をふるまわれる男衆は、ベロベロに酔っぱらいながらも行進を続け、口から勢いよく酒を吹き出したり、爆竹を派手に鳴らしたりと大騒ぎ。かつては漁業に携わる人の多かったマカオならではの奇抜な風習で、中国の無形文化財に指定されている。「潭公祭」は、漁業の神様「潭公」の生誕祭。コロアン・ビレッジにある潭公廟の周辺で、広東オペラやライオンダンス(獅子舞)が奉納される。

年々注目度が増す国際的ボートレース

ドラゴンボートフェスティバル(端午節)

★ 5月27日(土), 28日(日), 30日(火)

腐敗政治に抗議して入水自殺した楚の時代の詩人、屈原をしのいで行われる、中国古来のお祭り「ドラゴンボートフェスティバル(端午節)」(30日)。その祝賀イベントとして開催される「マカオ国際ドラゴンボートレース」(27、28、30日)は、今や国際的なスポーツとして世界的に認知されている。レースは3日間にわたり南灣湖で開催。地元マカオはもちろん、世界各地の強豪チームが参加する。太鼓を打ち鳴らす音と熱い声援のなか、龍の形をしたボートが水しぶきをあげながら、滑るようにグングン進む光景はじつにダイナミックだ。会場には無料の観覧席や食べ物の屋台もあり、お祭りムードで楽しめる。参加チームや試合時間の詳細は、ホームページでご確認を。

www.sport.gov.mo/en/sites/dragonboat

マカオのシンボルフラワー「蓮」の祭典

第17回 マカオ・ロータス・フラワー・フェスティバル

★ 6月10日(土)～18日(日)

蓮の花は、マカオの旗のモチーフにもなっているマカオのシンボル。6月に入ると次々と開花し、ピークを迎えるころに毎年開催されているのがこのイベントだ。「ロウリムイオック公園」などの公園や観光スポット、沿道や街角にも蓮の鉢植えが飾られ、どこを切り取ってもフォトジェニック。パステルカラーの建物に淡いピンク色の花が映える、絵ハガキのような一枚が撮影できる。特に見応えがあるのが「タイパ・ハウス」の前に広がる蓮池。ペパーミントグリーンで統一されたポルトガル様式の住宅群と、咲き誇る蓮の花の対比は、息をのむほど美しい。地元の中国料理店では、蓮をテーマにした料理を楽しむこともできる。

オープンは?

今年もいくつかのメガリゾートが開業するといわれるマカオ。その皮切りとなるのが2月27日に、新口岸地区にあるマカオ・フィッシャーメンズ・ワーフ内に誕生した「レジェンド・パレス・ホテル」だ。モンテカルロをテーマにしたホテルで、等級は5つ星、スイートを含む客室数は223室で、カジノを併設するという。同エリアは大規模なリノベーション工事中で、1つめのホテル「ハーバービュー・ホテル・マカオ」は2015年開業。2つ目が「レジェンド・パレス・ホテル」で、3つ目となる「レジェンダー・ホテル」は、来年夏の竣工を目指しているという。また、今年はさらに「マカオルーズベルト・ホテル」「The13」(写真⑤)「MGMコタイ」などの開業も予定され、マカオファンの期待が高まっている。

PICK UP EVENT!

注目イベントカレンダー

4月

- ★ 4日(火) **清明節** 先祖の墓に参り供え物などをとする家族の行事。
- ★ 14日(金)～15日(土) **イースター・ホリデー(復活節)**
キリスト教コミュニティの行事。街では卵型のスイーツなどが販売される。
- ★ 19日(水) **天后節**
船乗りを守る少女神「娘媽」(天后、媽祖ともいう)の生誕祭。
- ★ 28日(金)～5月31日(水) **第28回 マカオ芸術祭**
世界中の国や地域のアーティストがマカオに集結。

5月

- ★ 3日(水) **漚仙祭 / 酔龍祭 / 潭公祭**
漚仙祭は、仏像を清める宗教行事。酔龍祭はマカオ独特の漁民の祭。潭公祭は天候を支配する漁業の神、潭公の生誕祭。
- ★ 13日(土) **ファティマ聖母の行列**
1917年、ポルトガルのファティマに聖母が出現した奇跡を祝う祭り。
- ★ 18日(木) **インターナショナル・ミュージアム・デー**
国際博物館協会で定められた記念日。入場料が無料になる博物館も。
- ★ 27日(土), 28日(日), 30日(火)
マカオ国際ドラゴンボートレース
- ★ 30日(火) **ドラゴンボートフェスティバル(端午節)**
全国各地からのチームが参加する国際レース。もともとは中国の伝統行事。

6月

- ★ 10日(土)～18日(日)
第17回 マカオ・ロータス・フラワー・フェスティバル
マカオのシンボルでもある蓮の花が満開になる時季に毎年開催。
- ★ 12日(月) **ナーチャ祭**
マカオを疫病の蔓延から救ったといわれる少年神、ナーチャの生誕祭。

▼ その他のイベントはここをチェック

マカオ・イベントカレンダー(マカオ観光局HP) jp.macaotourism.gov.mo/events/calendar.php

Reader's Voice

読者投稿

「路地裏めぐりはやめられない」

畠山 智さん(秋田県在住)

いったい幾つもの路地があるのだろう。どんな小さな路地にも名前が付けられているのがマカオだ。「巷」「里」「路」「街」などアズレージョで出来た通り名フレイトが路地を主張しているのがマカオらしい。カップルの記念撮影場所ともなっている「恋愛巷」やカレীদের横丁と知られる「大堂巷」など、有名な路地も多い。

2004年6月の香港からの日帰り旅から始まったマカオ旅行も今回で25回目。訪れる度 統合型リゾート(IR)の建設で街は大きく変貌を遂げているが、変わらないのが路地裏であったりする。路地裏には、人々の生活があり、人々の信仰心を垣間見ることができる。辻に祀られた道教の神様や廟では、線香が消えないように近所の人々が代わる代わる新しい線香を持つてくるのも、異国の風習を感じさせる。商店の門前には、門口土地財神が、辻には、魔よけとして石敢當がこころに祀られている。

路地裏めぐりをしていると、なんとも言えない美味しそうな匂いに引き寄せられたり、世界遺産に指定された建物が路地の隙間から唐突に顔を出すのも、マカオの魅力なのである。

特に路地裏めぐりをしている楽しくなるのは、その昔、マカオの貿易の中心であった新馬路と火船頭街の交差する場所である「内港エリア」と呼ばれる辺り。マカオ最古の賭博場があった十月初五日街には、ミシュランでも紹介されているマカオ人ご用達のお店が

くつかあったり、古いお茶屋や軒先に魚をぶら下げた乾物屋など飽きさせない。またその昔「紅窓街」と言われた福隆新街は、遊郭の紅窓を残しながら、今やグルメスポットに変身を遂げている。

建築物もアジアにしながら西洋に行ったような感覚にさせる世界遺産の建物群だけでなく中国ポルトガル様式と言われる建物も素晴らしい。ガラリと呼ばれるブラインドの棧を固定させた扉を持つ窓やサンタフェピンクやパンブキンイエローの外壁などバステルカラーの建物を見て歩くのも、路地裏めぐりの醍醐味であると思う。荷蘭園大馬路の洋館群や聖ラザロ教会周辺の洋館群は、必見である。たまに、美味しいお店を見つたりすると、路地裏の神様からのプレゼントと思ってしまう。まだまだ、路地裏めぐりは、やめられない。(2016年6月 マカオ訪)



投稿募集

マカオ旅行の体験談、大募集!
本紙掲載でワインプレゼント

マカオでの体験を800字程度の文章にまとめ、ご自身で撮影された写真1~3点とともにお送りください。掲載された方にはポルトガルワインをプレゼントします!

【応募方法】

メールまたは郵送でご応募ください。

【メール】

sensemacao@milepost.co.jp

以下の①~⑤を明記のうえ、件名に(センス・マカオ投稿)と入れてお送りください。

【郵送】

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-16-9
平河町 KD ビル7階
マカオ観光局 センス・マカオ投稿受付係 宛
原稿に以下の①~⑤を明記のうえ、お送りください。

【記載内容】

①氏名 ②住所 ③電話番号 ④メールアドレス ⑤渡航時期

※お客様にご記入いただいた個人情報は、投稿コーナー掲載時のご連絡、また掲載内容として使用します。※当該業務に必要な範囲で委託先に委託する以外に、ご本人のご同意なく、第三者に開示・提供することはありません。※原稿・写真は、返却いたしませんので、予めご了承ください。



マカオ航空のボーディングパス(搭乗券の半券)の提示で
お得な特典や優待サービスが受けられます



ギャラクシーマカオのホテル宿泊券やマカオ航空の航空券、参加
ショップレストランでの割引や ショーチケット、100香港ドルの





ご注意：

キャンペーンの内容/条件/特典等は予告なしに変更になる場合がございます。詳しくは各施設の係員にお尋ね下さい。
 搭乗券はマカオ到着後7日以内のマカオ行き、「NX」便と表示されているもののみ有効です。(コードシェア便名は対象外となります。)予めご了承下さい。
 搭乗券の他にパスポートの提示を求められる場合もございます。
 その他のサービス券との併用はできません。

<http://airmacau.jp/campaign.html>

東京支店

Tel : 03-3595-8811 Fax : 03-3595-8815

大阪支店

Tel : 06-6263-5383 Fax : 06-6263-8864

福岡支店

Tel : 092-292-8168 Fax : 092-292-8188

お得な特典や優待サービスが受けられます



ギャラクシーマカオのホテル宿泊券やマカオ航空の航空券、参加ショップレストランでの割引や、ショーチケット、100香港ドルのエンターテイメント券などが当たる抽選に参加(6月30日まで)



ウィン・パレスのスカイクラブが搭乗券の提示で無料にホテル2階の「リゾートステーション」で1周チケットとの引換となります。(4月30日まで)



パリジャンマカオのエッフェル塔7階および37階展望台の入場券が搭乗券の提示で無料に(4月30日まで)



スタジオシティのゴールデンリール、バットマンダークフライト、ザ・ハウスオブマジック、ワーナーブラザーズファンゾーンの入场券が15%OFFに(12月31日まで)



他にも土産物店、英記餅家、マカオタワーの入场券やバンジージャンプの割引など是非お得にマカオでの滞在をお楽しみください。

Sense MACAO
 Macao Once Again
 もう一度行きたいマカオ

センス・マカオ SPRING

2017年春号 年4回発行予定 製作・発行/マカオ観光局

お問い合わせ先

マカオ観光局 EXPERIENCE MACAO

〒102-0093

東京都千代田区平河町2-16-9

平河町KDビル7階

[TEL] 03-5275-2537

[FAX] 03-5275-2535

[E-mail] sensemacao@milepost.co.jp

[URL] www.macaotourism.gov.mo



読者の皆さまへ

- 定期配信をご希望の方は左記メールアドレスまでご連絡ください。今後メールにて Sense MACAO をお送りいたします。また、マカオ観光局ウェブサイトにあるアーカイブもご覧いただけます。
- マカオの街歩きに便利なウォーキングマップと、世界遺産や主な見どころの詳細な音声案内を収めたオーディオガイド(CD)を無料で配布中です(送料のみご負担いただけます)。ご希望の方は左記メールアドレスまでご連絡ください。

◎日本から電話をかける場合は、国際電話会社識別番号+010+853(マカオのエリア番号)を付けておかけください ◎マカオの通貨はパタカ(MOP)ですが、香港ドル(HKD)がほぼ等価で使用できます。2017年3月現在1HKDは約14.6円